～心の安心と健康維持を～

ロボットペット

株式会社セブン・カードサービス 合田　悠理子さん




合田悠理子は
イトーヨーカ堂に入社し、
販売の現場から
キャリアをスタートした。
こちらのカーテンは
お部屋が明るく見えるので
おすすめです


じゃあこれに
しようかしら


その後は企画室での
秘書業務や、サステナビリティ推進、
監査役スタッフなど幅広い仕事を経験した
一方で、長年にわたり
DEI推進の仕事にも
携わってきた
誰もが働き続けられる
環境づくりが大切です


仕事と親の介護の
両立が本当に大変で…
一人で抱え込まないでください
一緒に考えましょう
その活動の中で、
仕事と介護の両立という
大きな課題を実感していった


介護する側も、
介護される側もQOLを
高めながら暮らせる
仕組みが必要だと
感じていた



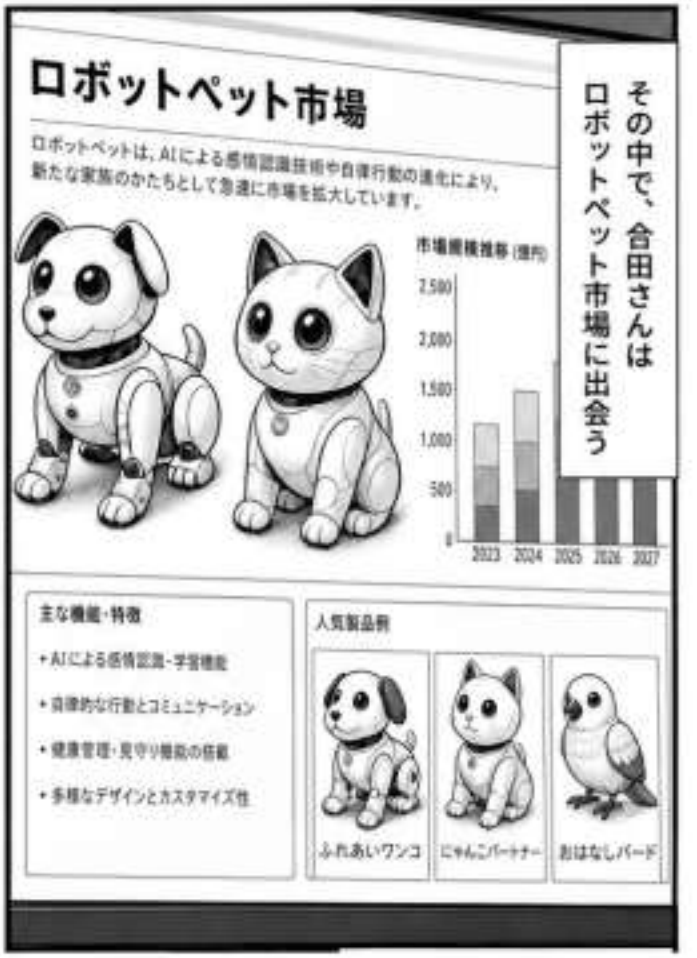

その後、
マーケティングに挑戦するため、
セブンカードサービスの
マーケティング統括部へ出向した

カード利用促進につながる
新しい市場を調べてみよう

そこでトレンドレポート作成の仕事を通じ、
さまざまな生活者ニーズを調査していた



その中で、合田さんは
ロボットペット市場に出会う



これって、ただの癒やし商品
ではないかもしれない


そんなある日、
合田さんは実家に帰省した
おかえり、
久しぶりね
遠かったろう
ただいま
帰省するたび、
両親が少しずつ
年老いていくことを
感じるように
なっていた


お姉ちゃん、
最近またお父さん
物忘れ増えたよね

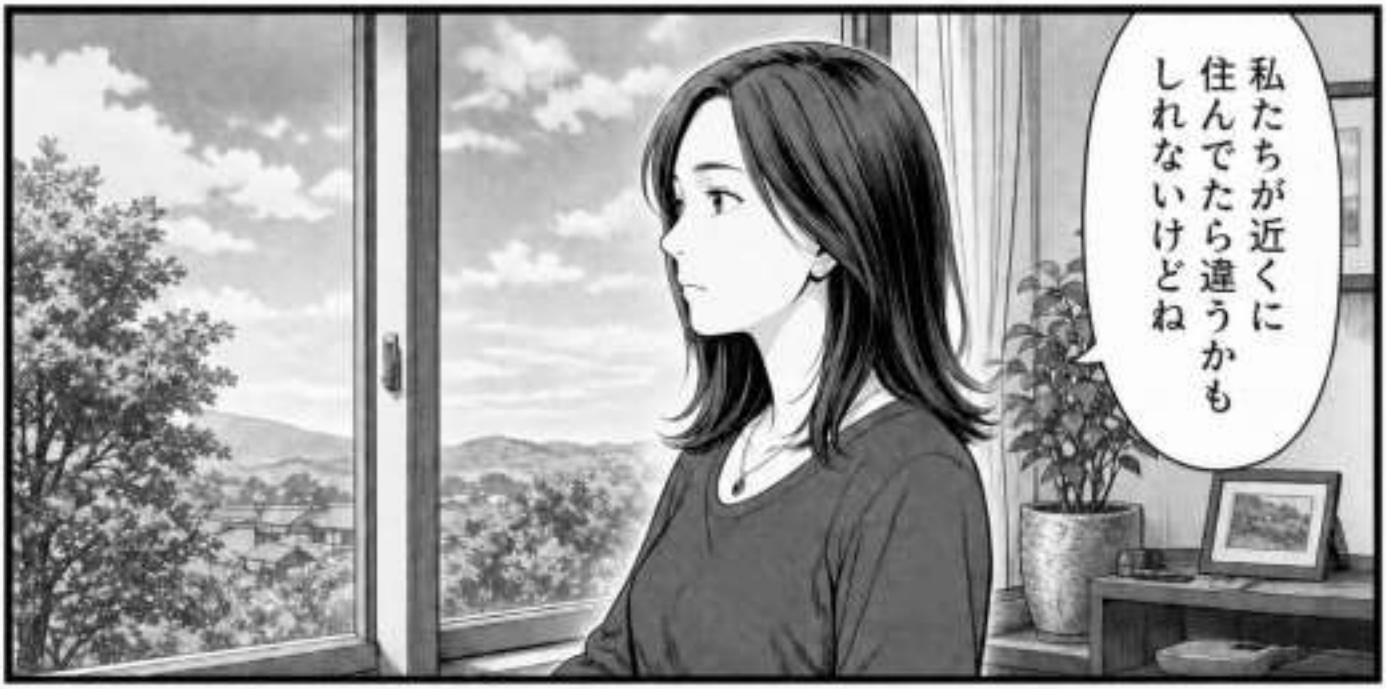

うん、
前より少し心配になるね


この家には、
もっとにぎやかな
時間があった


心做しか、
以前より静寂な時間が
増えるようになった


実家ではかつて、
三匹の猫を飼っていた
本当に
家族みたいな
もんだな
この子たちがいると
毎日が楽しいわね
しかし、猫たちは
一匹ずつ旅立ち、
最後の一匹も亡くなった。

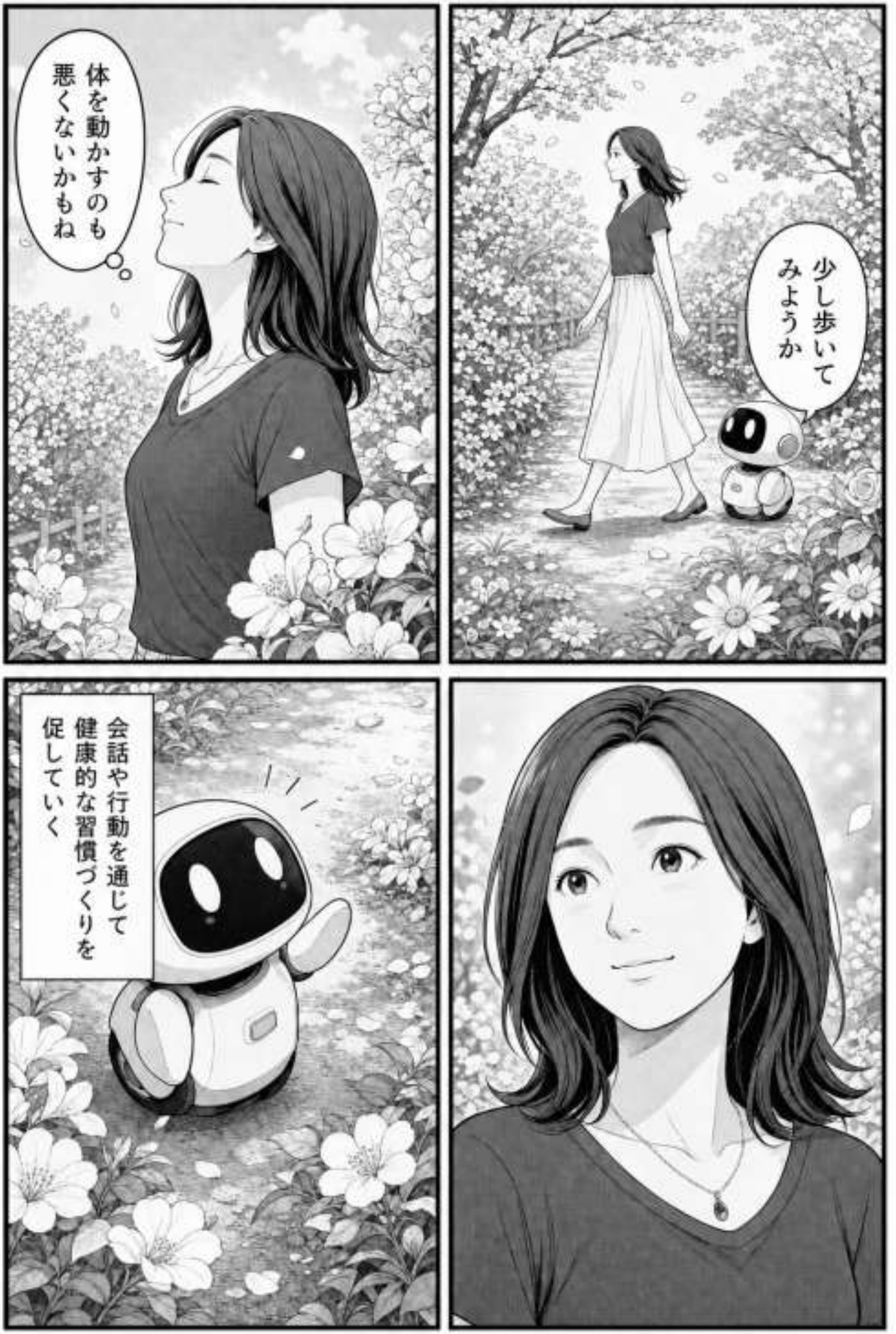

また飼いたいけれどね、
私たちの年齢を考えると
責任が持てるか不安なの
飼いたい気持ちはある、
でも最後まで世話
分からない
そうだよね
それは高齢世帯
ならではの切実な悩みだった
生き物を飼うって、
命を預かることだもんね


私たちが近くに
住んでたら違うかも
しれないけどね


でも毎日頼る
わけにもいかんしな


生き物じゃなくても、
心を支えてくれる
存在がいたら
その時、合田さんの中に
ある思いが芽生え始めた


そして私は早速
ロボットペットを
導入した
ロボットペットは
日常会話や
リマインド機能で
生活を支える
毎日のことだけど、
この子がいると
全然違う


少し歩いてみようか
体を動かすのも悪くないかもね
会話や行動を通じて健康的な習慣づくりを促していく


会話頻度や活動量などのデータを活用し、離れて暮らす家族の見守りにも対応する




これがあれば、私の家族にもきっと役立つ…
みんな元気そうで良かった


健康的な行動が
続けば、
保険料の割引や
特典も受けられる


楽しみながら
続けられる
保険にしたい






そして
事業発表に向けての
準備を多くした
社会課題だけじゃなく、
事業としての価値も
伝えなきゃ
緊張の中で
迎えたプレゼン当日
ドクン
ドクン
ドクン






その思いと
実現性が、
審査員の心を
動かした


ロボットペットと
保険を組み合わせ、
心と健康を支える
新しい仕組みを
提案します


実家では
三匹の猫を
飼っていました


でも両親は、
もう命あるペットを
飼う責任を
負えないと言いました

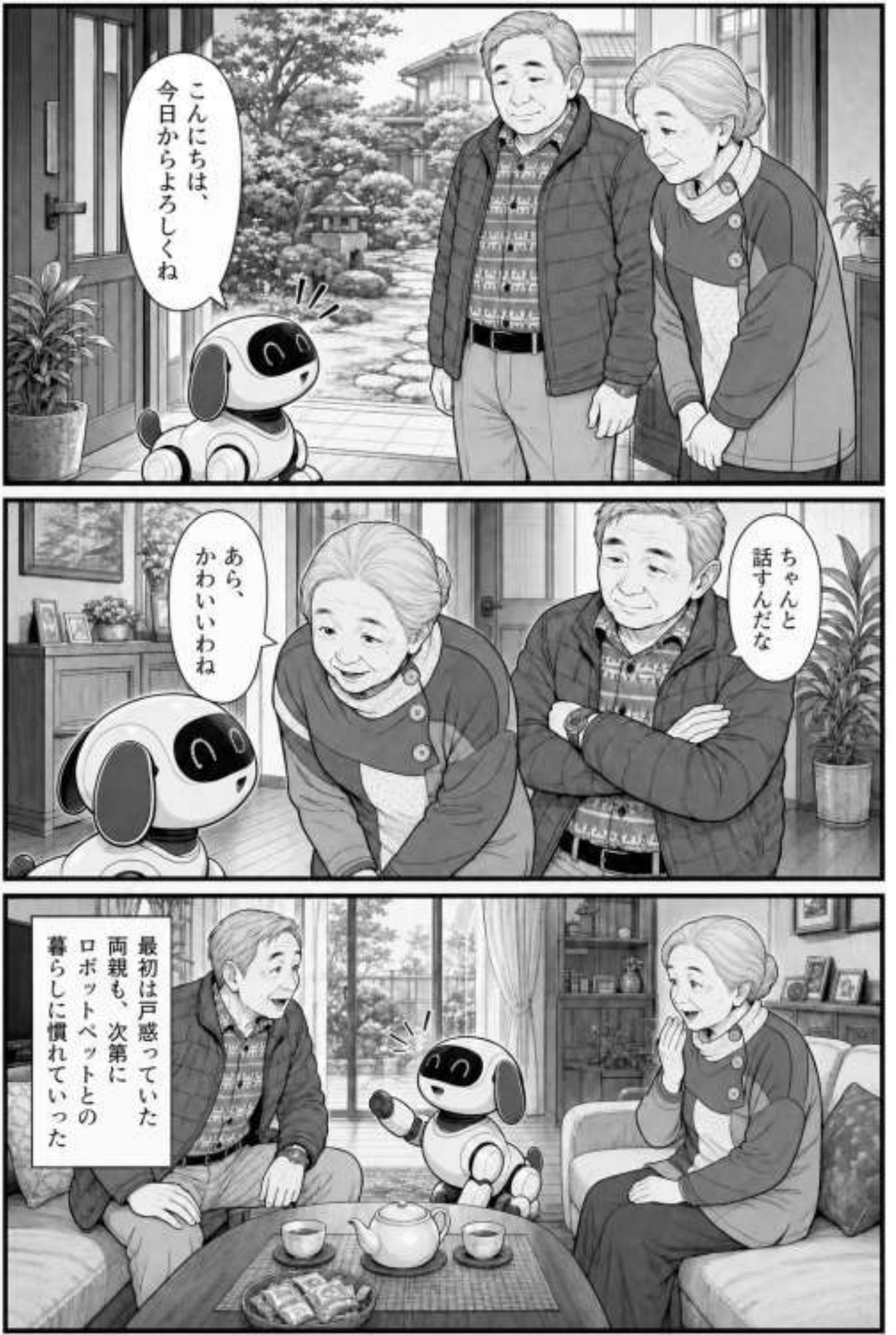

自身の経験を元に
発表をすることができた
それは多くの人の
心を動かした


5年・・後
NEWS
特集
保険×ペットロボット
発案者
心と健康を支える
新しい仕組み ——
合田 悠理子さん
保険×ペットロボットのアイデアを提案


これが
ただの思い付きだとは
言わせない
個人的な不安から
始まった思いが、
社会を動かす一歩に
なった


保険×ペットロボット
発案者
合田 悠理子さん




こんにちは、
今日からよろしくね
ちゃんと
話すんだな
あら、
かわいいわね
最初は戸惑っていた
両親も、次第に
ロボットペットとの
暮らしに慣れていった


一人で
暮らしていても、
孤独じゃない
そんな未来を
つくっていきたい
合田悠理子の挑戦は、
心と健康を支える
新しいインフラを生み出した